

50年前にいた オランウータンたち

オランウータン登録センター報告より

1971年5月10日発行

投稿 黒鳥 英俊
2021. 5. 28

ちょうど50年前の1971年（昭和46年）5月10日、オランウータン登録センターから発行されたオランウータンの飼育簿というのがあります。50年前どこでどんなオランウータンがくらしていたか簡単に概要を説明します。

[概 要]

◆ 1970年末現在の飼育数は

52個体（オス22・メス29・不明1）が21の動物園で飼育されていました。

（その後、1971年5月10日の時点で2個体減少してますので正確には50個体になります）

◆ 2020年末の現在の飼育数は

46個体（オス23・メス23）が12の動物園で飼育されています。

（そして今年2月に1個体減少しているので2021年5月10日の時点では正確には45個体になります）

[当時の飼育個体]

このなかでいまでも元気にくらしているオランウータンがいます。

・**ジュリー（多摩） メス 56歳 ボルネオオランウータン**

母親のジプシーの亡きあと、国内最高齢となりました。ジプシーの長女で、多摩で生まれてから静岡の日本平動物園にしばらくいて2005年にまた多摩動物公園に戻ってきました。いま旭山動物園にいるオスのジャックの母親です。最近ではチェリアの代理母として話題になりました。

- ・キュー（多摩） オス 推定51歳 ボルネオオランウータン

野生由来で船の中で保護されたオランウータンです。推定1歳のころ横浜の野毛山動物園に来ました。その後、1972年に多摩動物公園に来て今でも元気です。子どもの旭山のジャックと宮崎フェニックスにいるハッピーの父親でもあります。

- ・ネオ（東山） メス 51歳 スマトラオランウータン

東山動植物園で初めて生まれたオランウータンです。母親が育児を知らなかったため介添え哺育で育ちました。父親はバランです。オスのシブとの間にサンタが生まれました。

- ・ムカ（浜松） メス 51歳 スマトラオランウータン

東山動植物園で父親バロンと母親ラッグとの間に生まれた人工哺育個体でしたが、13歳のときに浜松市動物園に移動し、そこで鹿児島長崎鼻にいるメスのトヨコ（ウラン・ウー様）を出産しました。ネオの異母きょうだいです。当時はまだ1歳ぐらいでした。

- ・キュー以外は飼育下繁殖個体です。自然哺育ではないにしろ、ちゃんと次の繁殖につなげているのはすごいです。
- ・50年前の資料をみても、オランウータンがよく移動しているのがわかります。以前から動物園間を移動していますが、それには収容施設の問題もあったようです。最近は共同繁殖が主な目的です。
- ・移動に伴い名前が変わることがよくあります。呼びやすい名前にかえることが多いです。

[登録]

いまでは国内外の動物園にはオランウータンの血統登録というものが管理されてそれを動物園が利用できるようになっていますが、半世紀前はいまの（公社）日本動物園水族館協会のほうで国内の血統登録がやっと動き出したころでした。当時、多摩動物公園がまとめ役になり、オランウータン飼育園にアンケートをとってオランウータン登録センターというところから全国の動物園に配布されました。いまは行われておりませんが、一部はオランウータンから指紋をとって個体識別をしてました。

そして多摩動物公園がオランウータンの国内血統登録園となって、しばらく国内の飼育状況を把握することになり、その後、血統登録園が多摩動物公園から名古屋市の東山動植物園に移り、充実したものになってきました。さらに、GAIN（大型類人猿情報ネットワーク）のほうでも詳細なオランウータンのデータが公開されていますが、まだ一部未記載な部分や追加情報も必要となっています。

<https://shigen.nig.ac.jp/gain/index.jsp>

50年前のオランウータンの年齢（推定も含み）は平均年齢は7.2歳ととても低く最高齢でも17歳でした。登録簿の52個体のうち、14個体の年齢不明個体を除いて、10代が8個体、10代以下は30個体と半数以上を占めていました。今では全く考えられない年齢構成です。

[当時の動物園]

図にもありますように、1970年には関西圏に12頭のオランウータンが飼育されていました。(京都、枚方パーク、大阪天王寺、神戸王子動物園、姫路市動物園)そして1970年以降、宝塚動物園やみさき公園が加わり、1990年には亜種判断できていない園館もありましたが、関西圏に10頭、そして現在飼育されているのは王子動物園にいる「ムム」1頭だけになってしまいました。ほかは展示中止、閉園などで将来飼育しない計画の動物園も多くあります。

関西圏以外に仙台八木山、那須ワールドモンキー、宇都宮、横浜野毛山、上野、JMC、徳島、栗林、沖縄こどもなどで飼育をやめています。最近では大型類人猿の得意性をもたせ、チンパンジー、ゴリラ、オランウータン3種すべてを飼育している動物園はほとんどありません。

施設もいままで大型類人猿で同じ構造の動物舎になっていましたが、本来オランウータンは野生では樹上で生活している動物です。そのため動物園の彼らにも動物舎を立体的に移動できる施設に代わってきています。

[繁殖状況]

こうみるとこの半世紀あまり変化がないようにみえますが、1970年の登録のあと繁殖に成功する動物園も増え、新たな動物園の開園やワシントン条約批准前の導入なども加わり、オランウータンの個体数が増加し最高78個体にまでなったことを記憶しています。しかし、そのあとどんどん頭数が減っていきました。この繁殖に大きな影響を与えたのが、「オランウータン」として飼育されていた種が1980年代に「ボルネオオランウータン」と「スマトラオランウータン」が亜種であるという事が欧米の研究者から提唱され始めました。その結果日本でも亜種間での繁殖を避けるようになりぐっと繁殖にブレーキがかかりました。繁殖についてはまた別の機会にいたします。

現在ではこの亜種が種に変更になり、「ボルネオオランウータン」と「スマトラオランウータン」2種として完全に分離しました。そして2017年11月2日にスマトラ島で「タパヌリオランウータン」が発見され、現在3つの種として国際的に分けられるようになりました。

2021.5.28現在、日本ではオランウータン45個体が生活しています。日本で生活したことがある個体の総数は現在飼育されている個体を含めて、257個体にもなります。(GAIN:大型類人猿情報ネットワークより)これから先、日本オランウータン・リサーチセンターでも野生や飼育下の研究成果や情報提供により国内において動物園のオランウータンも末永く、幸せに過ごせるよう努力していきたいと考えております。

50年前のオランウータン飼育登録数は

1970 12.31現在 52 個体

全 種 52 個体 21 動物園

オランウータン登録センター資料より (1971.5.10)

2020 12.31現在 46 個体

ボルネオ	32 個体	12 動物園	(とべ動物園兩種飼育)
スマトラ	11	5	
雑 種	3	2	

GAIN 大型類人猿ネットワークより (2021.5.23)
<http://www.shigen.nig.ac.jp/gain/>



50年前の飼育園

札幌：太郎8・丸子(円子・エミ)7
 仙台：ポンタ7・ピーコ7
 上野：モリー17・タロウ17
 ハツコ10・ジロー4
 ヨウ子4
 多摩：ジブシー15・ホセ13
 ジュリト5・サリー2
 横浜：サンタ8・ポンコ
 (野毛山) キュー
 静岡：モリオ5・チャメコ5
 豊橋：ウー子5・ター子3
 名古屋：バラン8・ビッグ7
 ラッグ8・プリー8
 ネオ・ムカ
 JMC: アダム3・イブ3
 京都：ゴロウ5・ナナ6
 大阪：No.4 (リッキーかも)
 無記名2 (ブル・サツキかも)
 ひらかた：ジョージ15・メリー14
 ローズ2
 神戸：No.5・No.6・No.7
 (ルビー・ネネ・ジュンかも)
 姫路：無記名1 (ランコかも)
 栗林：タロウ9・アイリス6
 ランコ (ランチャン) 6
 道後：う吉8・たん子7
 徳山：ゴンタ7・マリー7
 福岡：ナンコ11
 別府：ター坊 (ウータン?)
 熊本：デラ4・ミチコ5
 鹿児島：ピック

(鴨池)
 青字♂ 赤字♀ 数字は年齢
 下線：現在生存個体

現在のオランウータン飼育登録数は

2021年 5.28現在 **45**個体
 オランウータン 45個体 動物園17
 (平均 2.6個体)

ボルネオ	31	11	動物園 (とべ動物園兩種飼育)
スマトラ	11	5	
雑種	3	2	

